思いや願いを実現する わくわく楽しい生活科の授業づくり ～中丹プロジェクト21生活科の実践より～

生活科授業力向上プロジェクトでは、単元のねらいの達成と児童の思いや願いの実現を見通した単元構想、気付きの質を高める教師の働きかけを工夫しながら授業づくりを進めてきました。また、児童の「やってみたい」「もっとよくしたい」「伝えたい」という意欲は、学びの原動力であり、そのような「心が動く仕掛けづくり」を試行錯誤しながら実践してきました。本ページでは、1年生「わたしのはなをそだてよう」の実践事例を紹介します。

単　元　名　「わたしのはなをそだてよう」
単元の目標　植物を継続的に育てる活動を通して、変化や成長の様子に関心を持って働きかけ、植物が生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、植物に親しみをもち、大切にすることができるようにする。

小単元：どんなはなをそだてたいかな？ ／ たねをまこう ／ せわをしよう ／ わたしのはながさいたよ ／ たねをとろう ／ みつけたことをつたえよう

プロジェクト21の実践

どんなはなをそだてたいかな？

単元の導入では、「わたしのはなをそだてよう」という単元名から、児童の思いや願いを引き出します。

（あさがおを育てるなら）
・どんなあさがおに育ってほしい？
・どんな花が咲いてほしい？

・きれいな色の花が咲いてほしい。
・大きな花が咲いてほしい。
・たくさん花が咲いてほしい。

育てる花の種類を子どもに選ばせることもできます。

児童の思いや願い

授業の導入では、児童の思いや願いを確かめ、本時の活動にねらいを持たせます。

関連する本や図鑑の展示

種の観察

幼児期の経験を生かした種まき

教師は教えすぎず児童の経験を生かす視点を持つことが大切です。

【例】「（こんな）はなをいっぱいさかせたい」 → 【例】「あさがおのおもい出をのこしたい」

あさがおの花の観察

咲いた花を使った色水遊び（生活科）

たたき染めを使ったあさがおの絵（図画工作科）

今まで大切に世話をしてきたあさがお。枯れても単元の学習は続きます。

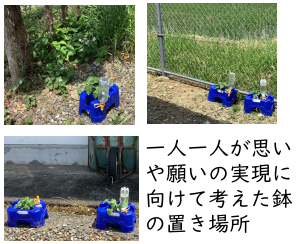
来年まで大切にとっておこう。

種とり

枯れたつるを使ったリースづくり（図画工作科）

単元の最後に、今までの観察カードをまとめた「あさがお日記」を作りました。題には、「あさがおのおもい出」「あさがおずかん」など一人一人の思いが表れています。

一人一人が思いや願いの実現に向けて考えた鉢の置き場所



・水やりの水の量、回数、時間
・支柱を立てるタイミング
・肥料をやるタイミング

などを自分で考えながら世話をしました。友達のあさがおとの違いにも気付き、なぜ？どうして？が出てきました。

主体性を引き出す手立て

幼児期とのつながり

園ではどんな花を育てたことがあるかな？

どんな世話をしたかな？

園での経験や学びを知ることは、単元とのつながりを知ることにもなり、指導に生かすことができます。
また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、児童の育ちを知る参考になります。

（参考）
○「わたしのはなをさかせよう」の単元計画例
○ワークシート例
二次元コード→

思考を促す教師の問いかけ

いくつ種をまきたいかな？

種をまく時はどうすればいいと思う？

たくさん花が咲いてほしいから、種を○個まくことにしたよ。

児童の思考を促すには、児童自身に選択させたり、自己決定させたりすることが大切です。そのことが、活動への意欲を高め、主体性を発揮することにつながります。

気付きの質を高める工夫

気付きの質を高めるには、違いに目を向けさせるための手立て（友達のあさがおと比べさせる、写真や動画で変化を見せる等）を工夫することが大切です。

あさがおの健康観察

朝の会の健康観察時に、自分のあさがおの様子で気付いたことを発表しました。

困った時の「あさがお会議」

大変！あさがおのつるが伸びて、踏まれてしまいそうです！

「どうしよう」「困った」と思うことがあった時に、みんなで会議を持ちました。

他教科との関連

「咲いた花でどんなことがしたい？」という教師の問いかけに対して、児童からは「色水遊び」「たたき染め」などの意見が出ました。

生活科の学習の中で生まれた「～したい」という思いが、他教科の学習にも生かされます。

気付きの質を高める工夫

視点を示した観察カード

諸感覚を使って自然や生き物と触れ合ったり観察したりできるように、視点を具体的に示したワークシートを活用しました。
※（参考）に掲載しています。

児童の思いや願いを引き出す教師の問いかけ

今まであさがおを大切に思って世話をしてきましたね。

あさがおは枯れてしまったけれど、どうしたい？

あさがおと離れるのはさみしいな。

飾りを作って飾ったらいいんじゃない？

児童にとって思いや願いのある学習だったからこそ、こんなことをしたい！という次なる思いや願いが生まれました。

単元の評価について

評価では、単元を通しての児童の変容を見取ります。活動の結果ではなく、児童の様子や学びの過程を大切にして評価をします。

実践を振り返って

プロジェクト研究員より

子どもたちは、「自分だけのあさがお」として特別感を持っていました。
置き場所を自分で考えさせたことで、日当たりをよく考えて世話したり、土日は水があげられないから日陰に置いたりするなど、あさがおの気持ちになり、考えて世話をしていました。支柱は、立てたい児童だけ立てたことで、つるが横に伸びていくことにも気付きました。